

■選手会活動報告 2020.4.01～2021.3.31

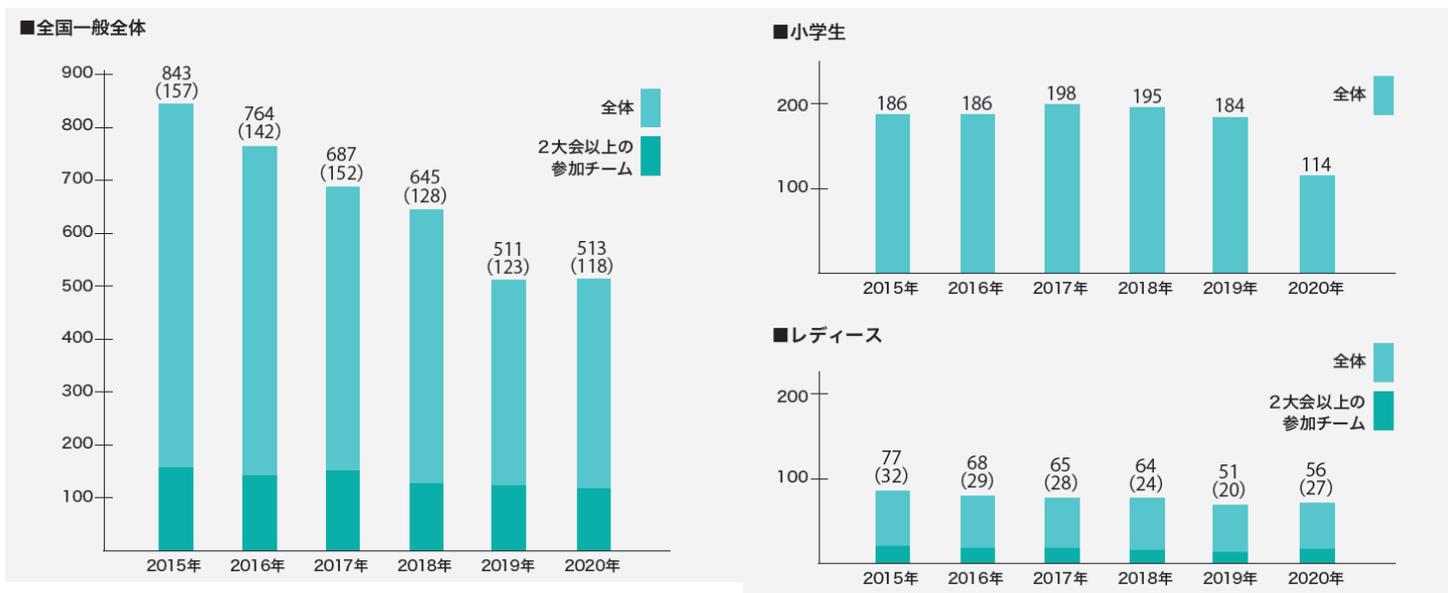
- 【1】日本スポーツ雪合戦選手会報告
- 【2】雪合戦に関する動向「チーム数」
- 【3】役員改選について

【1】今シーズンは、新型コロナ禍の影響で実施された大会は 岩手八幡平と北海道道央ブロック地区のみです。道央エキシビジョンマッチは選手会メンバーによる実行委員会主催で実施しました。万一の組織への責任を回避するためです。各地の雪合戦実施についても参考になればと思い、コロナ対策ガイドライン資料②を各連盟へ送り情報提供をしています。※報告資料②に掲載します。

①もう一点は、国際雪合戦連合に対するルールの提言です。これも道央支部選手会メンバーで実施しました。提案内容を掲載します。

・実際には北海道連盟から、9月中に提案募集の通知を受け提出したのですが、10日後には国際雪合戦連合から今回のルール検討は行わないとの通知があり、組織連携の曖昧な点が浮き彫りになってます。

●2020冬シーズン参加チーム数 (雪合戦マガジン編集部調べ)



●2020年中止となった大会へのエントリー数を含みます。全体数字の下段 () が、2つ以上の大会に出場しているチーム数です。(昭和神山、日本選手権、その他) いてみれば「競技性を意識できる」チーム数の目安としています。選抜チームでの出場もカウントしています。

●危惧すべき点は少子化の影響か小学生チーム数の落ち込みです。全国大会を何度も制している高野チーム(広島)も無くなったと聞きます。

子供や親を巻き込んだ普及方法として、雪合戦教室、体験会の実施取り組みで、福山支部や釜石協会の活動が注目されますが、チーム主導による練習会だけではなく、こういった活動が全国的に継続されることが必要かと思えます。

【3】役員改選について

今シーズンは、新型コロナ禍の影響もあり、全体の活動も選手会として実施できませんでした。

二回目の改選時期ですが、上野代表、並びに各地区代表は継続となります。また発起人から継続の現役員についてはチーム内での交代希望がある場合は変更していきます。

一本化を求めた選手会の声明文公開以降も現時点で二つの組織の状況は、一本化への進展情報がありませんが、山形、宮城と日本連盟脱退、国際連合加盟となっています。

所属組織に関係なく地域チームと選手のつながりを強め連携してければ、組織がひとつになった時に必要なネットワークになるはずです。コロナ禍に加えチーム数が減少傾向にある状況で選手会として、できる事を少しでも進めていければと考えています。

【国際連合】

北海道、岩手、宮城、山形、山梨、兵庫、鳥取

【日本連盟】

福島、群馬、長野、富山、島根、広島、四国

●次のページに資料を公開します。

①ルールの提言 道央地区選手会

②コロナ対策ガイドライン 北海道道央地区での開催事例

■現行ルールについての意見とりまとめ

指摘 『アウトになった選手が意図的に補給する行為』
チームへ警告イエロー 罰則7.2.2 について

経緯 ●アウトになった選手が持っている
雪球を無効球とした時期
(旧日連ルール)
細則ではその場に置く、事で無効雪球ではない

- そのためアウトになった選手が置いていった雪球を使用した選手までアウトにする判定事例があった。
- アウトになった選手が投げた雪球に当たってもアウトではないと細則には従来から表記

- 1 アウトになった選手は雪球を持って出るにルール変更 (2016年)
 - 2 翌年、持って出なかった場合に **グレー** その場に置いていく行為に対して チームへイエロー警告に変更 (2017)
※主催者判断で弾力的に適用可と記載
 - 3 翌年さらに、意図的に補給する行為にチームへイエロー警告 (2018) に変更
 - 4 意図的に補給する行為に チームへイエロー警告 (2019) その場で試合を止めて告知と当日指示。
- ②③④ 現在まで聞く限りルールが適用されたケースを誰も認識していない。
(道央審判、チームへ確認) / 直面したことが無い

- 反応**
- 1 その場に置くから、変更指導もあり、当初、選手が戸惑うも定着する
 - 2 定着した感もあり、持って出る、を指導。
 - 3 置いていっても、持って出ても良いという意味で細則から文言が削除された点 逆にこれまで経緯があったため、選手は困惑

- 意見**
- 4 試合を止めてイエローを出すように指示が出ていた点について
- このルールにより試合を中断する事はリスタートとなり試合の展開を変えてしまうので回避して欲しい (チーム選手からの意見)
 - 一斉攻撃など他の選手の動作もある中で中断するタイミング、判断も難しい (相互審判としての意見)

評価 抑止力というより、机上のルールでは？

指摘 ★この事例も適用となければならないのでは？

★スタート時、センターへ走る攻防の中でアウトコールを受けてもセンターまで走るケースが多いが、補給行為では無いのか？
試合中でも可能な補給方法である。

- その他該当するとおもえる時例)
- 自陣センターに1人、1シェルに1人の状況で1シェル選手が雪球を持ちセンターへ詰めたが1シェルから出たところでアウトコールを受けたが、そのままセンターまで走り、再びアウトを促され、雪球をセンターに置いてコート外へ出た
 - ボックスが走って1シェルまで持って補給する途中で被弾するも1シェルで球を置いて出る

【意見からの提案要素の抜粋】

意見

- 基本的に選手は、その場に置いていくので 警告イエローをさほど意識していない。中断となると話は別。
 - 現行ルールで行くのであれば、アウト選手はその場に、雪球を置いてコート外へすみやかに出るで良い。
- 本来記載があったこの記載を復活することで、「その場に置いていく」が優先されさらに認識が高まるのでは。※日連も同じルールで警告の記載無し。
- 試合中の中断、警告は回避すべき。
 - イエロー対象が出た時点で、2枚目レッドでその場で試合終了になるケースなら途中で終了でも理解できるが、運営上のイエロー伝達や 審判は対応できるのか？
 - 雪合戦規則的に、「試合中に告知しなければならない」、このタイミングしかない、規則的に考えて行った結果、行き着いているだけではないのか。
 - これまでの経緯をみても何度も何度も、変更があり、紆余曲折してきているがもっとシンプルな考え方に転換すべきでは
 - ★「アウトになっても走って補給する事例」をルール適用とするかの可否で罰則ルールとしての考え方が変わってくる。

- ①適用にした場合 →適用が増える。審判は正確な判定とアウト伝達が求められる。(選手は走っていて聞こえない)
- ②適用ではない場合→記載内容の矛盾。警告ルール自体に無理があるということでは。アウト選手の補給行為を柔軟にとらえるルールに改定しては。

【考え方としての提案】

- アウト選手は最後に直近のシェルター、選手への補給を可能とする。

「してはいけない」から「出来る」にすればグレーな部分は無くなる。

- アウト選手は、すみやかにコートの外へでる。(強調)

補給できるとした上で、すみやかにコート外へ出なかった場合に遅延行為でイエロー適用の方が、わかりやすいのでは。試合を止める必要が無い。

案

他

- 昭和新山の大会が主催大会の頂点なのでローカルルール扱いではなく正式ルールとして定着していただきたい。
- 支部として意見をさせていただく事は構わないが、連盟から問題や課題となる点の提起を示してから、問題テーマへの意見を要請する方法が良いのでは。
「先に問題や課題のテーマを提示した上で、解決案や意見を求める方法」

冬季雪合戦大会コロナ禍対策ガイドライン 北海道雪合戦連盟道央ブロック

この「ガイドライン案」は、北海道雪合戦連盟道央ブロック支部で開催される大会を対象に作成しております。現在、新型コロナウイルス感染については感染拡大となっており、警戒レベルも2と設定されている現状です。(11月3日現在)

行く先が見えない状況が続いていますが、経済の疲弊回復も並行して進めていく必要があることも明らかで、Go Toトラベル、Go To イベントと実施されている国の施策も必要な事と捉えて主催者としてコロナ対策のガイドラインを、競技の特性にも落とし込み、大会の実施を目指す考えで取り組んでおります。

もちろん、コロナ禍以降、初めて冬を迎える中で、第3波、4波と状況悪化の場合は、指針に準ずる形で中止の判断も大前提の上での事として、会場となる各施設側から、コロナ対策で臨む条件で実施できる場合の承諾もいただいております。

北海道選手権会場として予定している滝野スノーワールドは屋外での実施でテント対応を、サッポロオープン雪合戦は、ゆにガーデンの施設を利用させていただき中で、具体的な対応の検討を重ねて参ります。

以下、ポイントを補足させていただきます。

- 今回のコロナ禍の対応については会場設備や、運営方法、ローカルルールも視野に入れ、それぞれ臨機応変にコロナ対策に対応した実施方法があるかと思っておりますので、規則的には緩やかな判断で取り組みます。
- 運営側の意識共有は当然ですが、参加者の意識を高める事が最重要と捉え、参加者も一体となったイベントの開催が今、求められる方法であると考えます。
参加者の申し込み時点でのチーム全員への意識付けは、必須としていますので全員からの同意書をネット上(Googleフォーム)にて回収させていただきます。
同様に密になる雪球製造、施設がある場合の選手の控えスペースの区分が課題となりますが、進行にそったマニュアル作成と事前の配布を予定しております。
- 道央大会では、参加チームの過半数以上がチームヘルメットを所有していますのでヘルメットが無いチームへは、1人1個を貸出する予定です。相互審判も選手のヘルメットをそのまま使用としています。不足分は借用してでも対応などで対応する予定。
※実際にヘルメット使用はアルコール消毒を行う方法より、貸し出す数量がある判断からです。
- コロナ対策としては ホイッスル使用をやめ、最低必要数の電子ホイッスルに変更の予定です。

以上ですが、会場となる滝野公園、ゆにガーデン、茨戸川緑地コートとも基本的な共通の内容として取り組んで参ります。(一部施設の方針を優先します)

【主催者】

1. 全般事項

- 感染防止のため主催者が実施すべき事項と 参加者が厳守すべき事項をあらかじめ整理しチェックリスト化したものを事前に送り、参加者全員から承諾確認を取る。イベント当日も受付場所など適切な場所へ掲示する。
- 各事項がきちんと厳守されているか会場内を定期的に巡回、確認を行う。
- 高齢者、障がい者など利用者の特性に配慮する
- 万一、感染者が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分注意しながら、参加者より提出を求めた書面について保存期間（少なくとも1ヵ月以上）を定めて保存しておく
- イベント後、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合にそなえ立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくこと

2. 参加募集時の対応／参加者へ求める内容

- 参加者が以下の場合は、参加を見合わせを求めること（事前に承諾書の中で提示する）A-1（P3）
- マスクを複数枚持参すること。試合以外は常時マスクを着用
- 手袋、タオル、ティッシュ、ウェットティッシュを予備を含め持参すること
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施
- 会場内は密を常に回避する（2m以上）
- 会場内、コート周辺で大きな声での会話、応援をしないこと
- 感染防止のため主催が決めた 運営上（試合中）の措置、厳守と主催者指示に従うこと
- イベント終了後、2週間以内に新型コロナ感染を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

※次のページに具体的な書式を記載します。



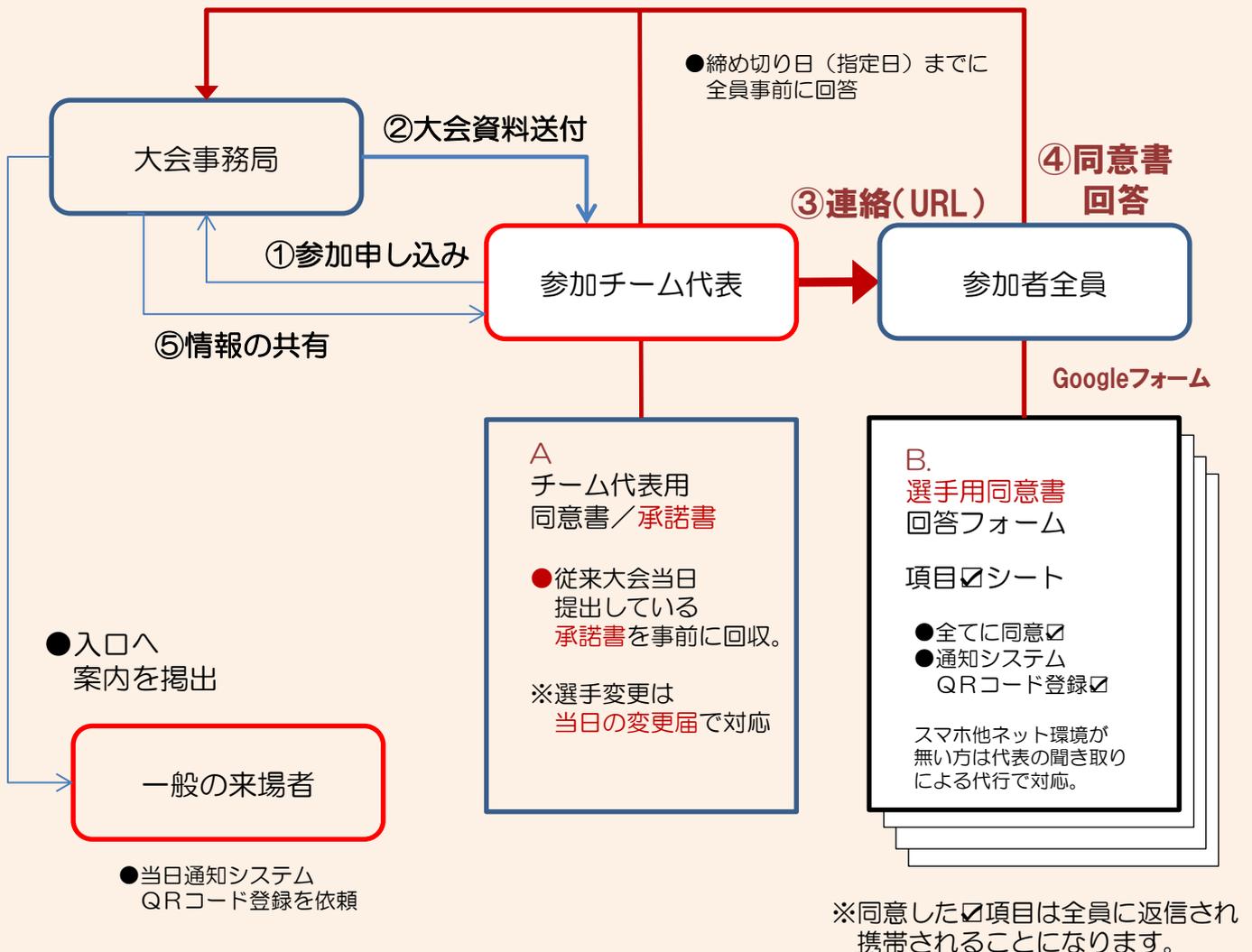
参加者募集時

- ①参加者へ事前コロナ対策の承諾と認知を通告の上で「同意書」提出を事前に義務付ける。(サンプル参照) 参加者の意識を徹底
- ②同意書を「Googleフォーム」にて各チーム毎に集約し、チーム代表者と共有
- ③北海道コロナ通知システム QRコードより事前登録

【参加者】

- 以下の内容を事前告知の上、参加チームを受け付ける。
- ①申し込み時に「同意書」の提出
- ③個人情報の観点から代表者とその管理をすることを義務化
- ②コロナ通知システムQRコード／事前登録

参加者全員の「同意書」をGoogleフォームで一括集計／管理



チーム代表者へ アクセス先を送り、代表者より全員へ転送。Googleフォームによる同意書の一括回収管理

A-1 (チーム名) サッポロイーグルス参加同意書

コロナ感染対策の一環として雪合戦大会へ出場チームメンバーは全員必ず、12月25日締め切りまでに回答をお願いいたします。このデータはチーム代表者の方と主催者が共有で管理します。ウィズコロナ禍の状況での大会開催につき、ご不便をおかけしますが、ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

メールアドレス*

有効なメールアドレス

このフォームでは回答者のメールアドレスを収集しています。 [設定を変更](#)

※全チーム毎、個別
フォームになります。

お名前と住所、電話番号を記入してください。

大会参加について以下のすべての項目について、前2週から当日までに該当する場合は参加を取りやめることに同意します。すべてに☑をいれてください。

- 発熱を自覚した場合
- 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状がある場合
- 味覚や臭覚の異常
- 体が重く感じる、疲れやすいなど
- 選新型コロナウイルス感染症陽性とされた人との濃厚接触があった場合
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる場合
- 過去14日以内に政府から入国制限入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は該当責任者との濃厚接触があった場合

大会に参加する上で、主催者が取り決めた以下の項目について厳守の上、指示に従うことに同意します。すべての項目を確認の上、☑を入れてください。

- 「北海道コロナ通知システム」QRコードの事前登録
- 各自 マスクの準備(複数枚用意)
- 各自 手袋の準備(複数枚用意)
- 各自 タオルの用意(手洗い時)
- ヘルメットの貸し出しを希望する選手は1名につき1枚、ヘルメット用タオルも用意
- メガホンの用意(審判有資格者、監督)※未確定
- チームでゴミ袋を用意し分別
- チームメイト、スタッフとの密を回避する
- 会場内で大きな声で会話、応援をしないこと
- 大会終了後、2週間以内に新型コロナ感染を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する
- 会場内で唾や痰を吐かないこと
- 飲みきれなかった飲料等を会場内に捨てないこと
- 大会前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること

競技に関して以下の項目を厳守して 準備と対応をお願いします。すべての項目に☑をしてください。

- ヘルメットの無い選手、チームへはヘルメットを貸し出す。
- 選手、監督、審判は試合開始直前までマスクを着用
- ①マスク着用解除は主審の合図による(バックライン整列前)
- ②マスクは鼻を外した状態でヘルメット着用、アゴかけたままとし、上からヘルメットバンドで押さえる。
- ③フェイスガードは鼻が隠れるようにヘルメットを着用する。
- ④審判、監督は、マイメガホンを用意し、メガホンを口元から下に向けて使用する。
- ホイッスルは使用しない。電子ホイッスルは主催者が用意する
- 相互審判は、マイヘルメット、チームウェアのまま、黄色腕章着用で実施する。
- その他、コート主任・主審の指示に従う

※①～④に関してはシーズン当初の大会で検証をかね実施し、改善が必要な場合はさらに検討を加えます。

3. 当日大会受付時の対応

- 受付窓口には 手指消毒液を設置すること
- 発熱や軽食であっても咳、咽頭痛など症状がある場合は、入場しない事を呼びかける。

●会場に応じて対応

- 赤外線センサーによる検温を設置 レンタル
- 検温によるチェック

- 当日受付の簡略化 前日の提出/ネットによる事前受付を奨励

参加者からの同意書の提出 ※前述のGoogleフォームを使用した同意書へ回答

- 氏名、年齢、住所、連絡先（電話）
- 当日の体温
- 前2週間における以下の事項の有無
 - 平熱を超える発熱（おおむね37度5分）
 - 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
 - 味覚や臭覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすいなど
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた人との濃厚接触の有無
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は該当責任者との濃厚接触があった場合

4. 主催者が用意、対応するもの

■手洗い場所

- 手洗い場へは ポンプ式のハンドソープを用意
- 手洗いは30秒以上の掲示 ※手拭き用のタオルは参加者が持参
- ドアノブ、取手などは手袋着用で。運営側はこまめに消毒
- 換気に配慮

■休憩待機スペース

- 広さにゆとりを持たせ、密になることを回避
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度入室する人数を制限する
- 参加者が触れる機会の多い場所（ドアノブ、ロッカーの取っ手、テーブル、イス等）についてはこまめに消毒を行う
- 換気に配慮
- スタッフは手袋とマスクを着用

■飲食の提供

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い手指消毒を行うよう声かけ
- 飲料は自販機による提供、持ちこみを推奨
- 弁当を斡旋する。ゴミについてはチーム毎にまとめる
- 飲食を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

※次のページに続く。 ▼

4. 主催者が用意、対応するもの 続き

■観客の管理

- 観客への来場には、自粛を要請する。チーム帯同の場合は選手同様に同意書を提出
- マスク、手袋着用、タオル持参を呼びかけ
- 大声での声援や会話を控えること
- 留意事項を周知すること

■ゴミの廃棄

- 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して指定場所へ。
- マスクや手袋を脱いだあとは石鹸と流水で手洗い、手指消毒をすること。タオル持参。

5. 雪合戦参加者への対応要請／事前の同意書内容共通

■参加者が各自用意するもの

- マスクの準備（複数枚用意）
- 手袋の準備（複数枚用意）
- タオルの用意（手洗い時）

- ヘルメットの貸し出しを希望するチームは1名につき1枚、ヘルメット用タオルも用意

- メガホンの用意（審判資格者、監督）※ホイッスルは使用しません。
100円ショップ対応で可（※今後の検証によって実施方法を確定）

- チームでゴミ袋を用意
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- チーム内の参加者、主催者スタッフとの距離をとり、三密にならないようにする事

- 会場内で大きな声で会話、応援をしないこと
- 感染防止のため主催が決めた 運営上、試合中の措置、厳守と主催者指示に従うこと

- 大会終了後、2週間以内に新型コロナ感染を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

- 大会前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること
- 会場内で唾や痰を吐かないこと
- 飲みきれなかった飲料等を会場内に捨てないこと

- 共通ゴミの廃棄
- 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して指定場所へ。
- マスクや手袋を脱いだあとは 必ず石鹸と流水で手洗い、手指消毒をすること



6. 競技における留意点

- ヘルメットの無い選手、チームへはヘルメットを貸し出す。
(事前に希望を提出)
- 選手、監督、審判は試合開始直前までマスクを着用
- ① マスク着用解除は主審の合図による(バックライン整列前)
- ② マスクは鼻を外した状態でヘルメット着用、
アゴかけたままとし、上からヘルメットバンドで押さえる。
- ③ フェイスガードは鼻が隠れるようにヘルメットを着用する。
- ④ 審判、監督はマイメガホンを用意し、メガホンを口元から下に向けて使用する。
- ヘルメットフェイスガードは鼻より下がるようにヘルメットを着用
- 審判、監督は、ヘルメット着用の上、マイメガホンを用意し、
メガホンを口元から下に向けて使用する。(今後、検証してから方法を確定)
- ホイッスルは使用しない。電子ホイッスルは主催者が用意する
- 相互審判は、マイヘルメット、チームウェアのままで、
黄色腕章着用で実施する。
- 相互審判の動作 ①中断 ②フライング ③フラッグ奪取は
メガホンを頭の上で回しアピールし、センター審判が電子ホイッスルを鳴らす。

※①～④に関してはシーズン当初の大会で検証をかね実施し、
改善が必要な場合はさらに検討を加えます。

次のページ以降に具体的な実施方法を記載します。



受付時対応

受付時、全員を対象

- ①来場者全員の検温チェック
(予算と屋内外と会場別に対応)



赤色灯による自動告知

- ②北海道コロナ通知システム
QRコードボード設置 (観戦者用)

- ③受付の簡略化
- 消毒用のアルコール設置
 - 受付テーブル前に、隔離シートを設置
 - 受付スタッフマスク着用

- ④注意、呼びかけ放送を徹底
⑤誘導スタッフ要員を確保

- ⑥ヘルメットの貸し出し(事前申告)

■以下の行動をチームへ徹底する

- ①入場時の検温協力要請 受付時間の調整
～入口カメラによる赤外線感知システムなど
屋内施設の場合はレンタルで検討

☑選択

☐滝野公園：屋外の場合、専用テントを用意
人海戦術による検温を実施

☐ゆにガーデン 予算があれば
赤外線感知システム導入を選択

- ②コロナ通知システム
選手はQRコード事前登録を実施
～応援観客などを誘導

- ③受付時間帯の厳守
試合の早いチーム・遅いチームへ
事前告知前後半でタイムテーブルを検討
チームの対応を要請

- 参加承諾書の事前回収
- 選手変更届の書式を変更し対応
(日連様式を採用)

会場の体制

【会場】待機場所について

- ①参加者の控えスペースを指定
室内/屋外 大会会場により判断
- ②可能な範囲でテントを増設
- ③応援観客への来場自粛要請
今回は特に幼児の来場について告知する
ただし、柔軟な対応とする。

密回避のため喫煙所を設置せず。車内利用

■三密に対応できる施設環境が困難な場合

- ①車両を待機場所として利用することも要請
- ②チームの試合に合わせて
控え場所の入れ替えなど検討

※会場により対応を検討

- ①マスクを取って良いのはコート上で挨拶後（試合開始前）とする
- ②手袋は試合を含め常時着用
- ③雪合戦用具 ヘルメットは1人1個専用使用とし、使いまわし無し
- ④雪球ケースのコーナーの密回避
- ⑤雪球製造コーナーのスペースを出来るだけ広く確保
- ⑥コート内審判テントは入り口を開口
選手入場時の誘導を徹底

■以下の内容を事前告知の上、徹底

- ①**試合開始時まで、マスク**の着用
手袋は常時着用（同意書に記載）
- ②雪球製造も手袋着用厳守
予備の手袋も各自用意とします。
- ③チームヘルメットの無いチームへは
審判用のヘルメットも含め**一人に1個貸出**
※事前の借用申請 サイズ申請
- ④～⑤
代表が責任をもって誘導
雪球受付～雪球製造と三密を回避

試合までの流れ

【従来の競技者名簿の提出廃止】
競技者リスト回覧方式で実施

- ①【**競技受付**】室内／屋外テント
用紙提出BOXの設置、受付時間厳守
- ② 用紙返却（最大12チーム）
一斉にテーブルに並べる
- ③【**雪球ケース配布テント**】
 - ・ハンコ省略
 - ・チーム（番号）でチェック
- 【**雪球製造コーナー**】
 - ① スペースの十分な確保
 - ② 雪球製造コーナーのスペースを出来るだけ広く確保
事前に**マニュアル**を配布し密を回避
- ※製造器配置場所、製造工程を確保
三密を回避
- ③ 他県連の大会のように**制限時間で打ち切り**を検討 出来た分のみ
- ただし、雪質の状況、試合の進行、相互審判による人数不足などを考慮し
試合毎に公平になるように都度判断し
「残り時間」での制限を加える。

【従来の競技者名簿の提出廃止】
参加チーム代表は事前記入の上
終日管理 終了後提出

- ① 競技受付 用紙提出BOXへ投函
受付時間厳守 チームは別途待機
- ② 用紙返却後、直ちに移動
- ③ 雪球ケースを受け取る
 - ・最少人数で運搬対応
 - ・チーム名（番号）申告

参加チーム代表は、速やかな対応を
マスク手袋は着用、おしゃべりはしないように。

- ② 事前に雪球製造の役割分担を検討（例）
 - A-1) 雪を搬出
 - A-2) 雪球製造器へ投入
 - B-1) 製造器担当
 - C-1) 2～3名担当で雪球をケースへ一旦移動
 - C-2) 2人ペアで握りしめて1ケース毎に製造していく
- ③ 指定時間内に雪球を製造する
- ④ 雪球ケースをコートへ移動
前の試合が終了していない時は通路等密にならない場所で
チームメンバーも密を回避

□試合中マスク(鼻除外)については検証。

- 審判**
- 主任/メガホン
 - C主審/電子ホイッスル・メガホン
 - 副判/メガホン
 - エンド副審/メガホン、電子ホイッスル

審判の進行

- 1 通常どおり整列
主審はマスク越しにトラメガで
注意事項伝達 開始前にマスクを顎へ移動
- 2 主審はメガホンで「ヨ～イ！」コール
～電子ホイッスルを鳴らしスタート
- 3 アウト宣告、審判にメガホンもたせ
下に向けてコール
 - 副審のアウトコールを主審、エンド審判が
メガホンで補助
 - またはコート主任も メガホンで補助
 - 副審のフライング、中断、フラッグ奪取を
主審、エンド審判が電子ホイッスルで補助
(道央エンド審判は高所台に配置)
 - 副審は昔のフラッグでアウトをアピール
(検証して確定)
- 4 ●最終セット終了時、選手はバックライン整列
したまま、試合結果を聞く。
 - 主審はセンターでトラメガで試合結果を告知
終了後、勝利監督にサインほか、トラメガで
相互審判など誘導告知、
ゼッケン回収、手袋、マスク着用継続
 - 審判メガホンのアルコール消毒は都度、難し
いため専用のメガホンを持参してもら
有効であれば、審判は各自用意する
(¥100ショップ)

その他

- ①スタッフ関係者もマスク手袋着用を徹底
こまめに室内施設アルコール消毒を行う。
 - 昼食弁当を事前に斡旋/参加者持ち込み
- ②開会式は 代表者ほか2, 3名で実施
閉会式も 簡略化を目指す。調整

※審判、監督のメガホンは最初の大会で検
証の上、再度検討事項です。

- 記録**
- 記録/マスク着用
 - 時計係/マスク着用・電子ホイッスル
 - 審判テントに消毒用アルコール
 - 時計係は、終了の電子ホイッスルを担当

選手の動き

- ① 選手はヘルメット着用、手袋・マスク着用で整列
対面の距離を保つ※
- ② 手袋着用だが握手は省略
- ③ マスクを鼻を外し、アゴにかかるマスク部分は
ヘルメットバンドで固定
雪球運搬～バックラインへ整列スタートを待つ
- ④ あらかじめ試合中の声のアピールや抗議による
声出しの自粛要請(本来の反則ルールも適用)
リザーブ、アウト選手はマスク着用
- ⑤ 監督の声出しについては同上にマスク着用
メガホン(持参)を持たせ下に向けて使用とする
- ⑥ 試合勝敗確定時、バックラインに整列のまま
試合結果を聞く その場で挨拶し、試合終了。
※終了後の息遣いを考慮
※勝利監督はサイン
- ⑦ ヘルメット取り、マスクを着用
ゼッケンを回収 手袋は常時着用か交換
- ⑧ 相互審判は、マイヘルもしくは支給ヘルメットを
そのまま着用、衣服もそのままが良い。
審判イエロー腕章のみを着用(道央スタイル)
 - 審判のメガホン対応が確定の場合はチームの
審判有資格者へ伝達する事。

- ①観客もマスク手袋着用を徹底。応援声援を
禁止とする。
 - 飲食は持ち込みを推奨 弁当斡旋。
- エンジョイ部門に関しては 5人制で実施